

令和6年度 第1回阪南市地域公共交通会議 会議録

【開催日時】 令和7年2月17日（月） 午後3時00分から開催

【開催場所】 阪南市役所3階 全員協議会室

【出席委員】 委員24名中、21名の出席の下、開催した。

魚見 岳史、井上 稔、竹中 宏子、南 憲治、小森 成人、小川 和彦、
讃井 聡、尾原 健一、西谷 興季、杉田 精教、中村 洋一、日野 泰雄、伊勢 昇、
小林 征治、下川 昌、徳田 弥之（途中退席）、岡野 純、藤本 健一、奥野 英俊、
富岡 弘、井本 昌彦

【欠席委員】 松下 芳伸、釈迦戸 久夫、堀内 良子

【傍聴者】 4名

【案 件】

- （1）令和5年度阪南市地域公共交通会議決算報告について
- （2）令和6年度阪南市地域公共交通会議予算（案）及び監事の指名について
- （3）令和7年度阪南市地域公共交通会議予算（案）について
- （4）路線バス（尾崎線）の見直しについて
- （5）その他

【結 果】

- ・会議及び会議録の公開について、承認を得た。
- ・令和５年度阪南市地域公共交通会議決算報告について、承認を得た。
- ・令和６年度阪南市地域公共交通会議予算（案）及び監事の指名について、承認を得た。
- ・令和７年度阪南市地域公共交通会議予算（案）について、承認を得た。
- ・路線バス（尾崎線）の廃線について、承認を得た。
- ・阪南市コミュニティバス運行計画（案）について、報告を行った。

【質疑応答】

会議の議事進行等については、本会議の会長である副市長が不在となっているため、日野副会長が職務を代理することが報告された。

（１）令和５年度阪南市地域公共交通会議決算報告について

（副会長） 原案通り承認するということによろしいか。

（異議なし）

２）令和６年度阪南市地域公共交通会議予算（案）及び監事の指名について

（委 員） 開催回数も少なく、今年度は第１回目の開催時期も年度末に近い時期であり、阪南市地域公共交通会議の運営が順調に行われているとは思えない。令和６年度の決算報告については、いつ頃実施されるのか。

（事務局） 令和７年度に行われる第１回目の阪南市地域公共交通会議にて実施と考えている。

（副会長） 原案通り承認するということによろしいか。

（異議なし）

３）令和７年度阪南市地域公共交通会議予算（案）について

（事務局） 阪南市地域公共交通計画策定に関する会議の開催を３回見込んだ分、例年より増加している。

（委 員） 計画策定に関する費用自体は、事業費に入らないのか。

（事務局） 国の補助金の申請と市への予算要求を同時で行っている状況で、国の補助金の採択が行われ

た際は、一部調査事業に関して、補正予算として事業費に入れるものと考えている。

(委 員) 地域公共交通計画に基づいて実施する事業は、地域公共交通会議の事業費として計上され、事業として行われるべきである。国の方とも相談し、地域公共交通会議の中の事業費がどうあるべきかということについて、再度検討してもらいたい。

(副会長) 他に意見がなければ、原案通り承認するという事でよろしいか。

(異議なし)

4) 路線バス(尾崎線)の見直しについて

(委 員) 手続きとしては、地域公共交通会議で廃止が認められた後、30日前の届け出で廃止できるというものであるが、路線バス廃止のタイミングで、コミバスのダイヤを見直すということによいか。

(事務局) その通りである。

(委 員) 廃線を地域公共交通会議で諮り、承認されて30日前の届け出であれば、8月末を待たずに手続きは可能ではないのか。路線バス尾崎線とコミバスのダイヤ改正は8月末で予定しているのはなぜか。

(事務局) パブリックコメント又は住民説明会等の検討を含めたスケジュールで説明しており、手続きをスムーズに進めることができれば、8月末にはならないが、どのような意見が出るのかわからないので、あくまでも目安として8月末という時期を示している。

(委 員) 2021年度から2023年度の路線バスの利用者数のデータであるが、2022年度の期中に路線再編していることから、2021年度と比較して減少しているのは当然ではないか。

(事務局) 路線再編によって、昼間の時間帯を減便したので、路線再編時に一日あたり18便減っている。現状の利用者数の1便あたりの平均人数は平日5.9人、土日2.4人と、利用者は非常に少ない状況である。

(委員) 利用者のデータは全体として提示されているが、比較するには同時時間帯でのデータが必要だと思う。同時時間帯のみで比較すると減少幅は提示されているデータとは異なるのではないかと思うが、全体としては利用者が減少しているという理解でよいのか。

(事務局) その通りである。限られた人員配置をどのように行うかが課題となっており、乗務員の状況や利用者の推移、営業所からの立地等総合的に判断したうえで、路線バス尾崎線の廃線を判断している。

(副会長) 事業者として、例えば、5年後、10年後どのような状況になるのかというような将来像を示したうえで、早期に自治体と協議できるようにし、地域と議論できるようにしていただきたい。

(委員) 現在の人員の中で、現在運行しているコミバスを維持しながら、朝夕を足してでも運行できるような形でダイヤを編成するということでのよいのか。

(事務局) その通りである。現在のコミバスを運行している人員で法令を遵守したうえで、運行継続できる範囲でダイヤ編成する。

(委員) コミバスのダイヤ案について、結局全然利用がない場合や、時間帯を含め使い勝手が悪い等の利用者の意見が想定されるが、今後、市として、フォローアップは考えているのか。

(事務局) 今回の案で、和泉鳥取駅への接続を追加しているので、利用者の増加を期待している。毎月コミバスの利用者数を集計しているので、検証していきたいと考えている。

(副会長) 事業者として、短期間ではあるが、乗降数等のデータを示してフォローアップする時間を確保していただきたい。

(委 員) 今回のコミバスについて、ダイヤを変更するだけで料金に関しては変更しないのか。路線バスが２３０円のところをコミバスで一部補完対応するのであれば、補完するピーク時は２３０円、オフピーク時は１００円という料金形態があってもよいのではないか。

(事務局) 今回のダイヤ案はコミバスでの増便という暫定案としており、１００円という料金形態で考えている。

(委 員) 路線バスの朝の時間帯の通勤通学に利用されていて、会社の就業時間や学校の始業時間に間にあわない場合は、他の交通手段に変更して対応するケースが考えられる。顕在化した需要だけではなく、潜在化してしまうかもしれない需要も調査すると、今後のダイヤの検討にも有益になると考えられる。

(副会長) 他に意見がなければ、原案通り承認するという事でよろしいか。

(異議なし)

(5) その他

(事務局) 路線バス尾崎線と同じ理由で、路線バスイオン尾崎線については、２０２５年４月１日をもって、運行を終了することになった。

【午後４時１５分閉会】